

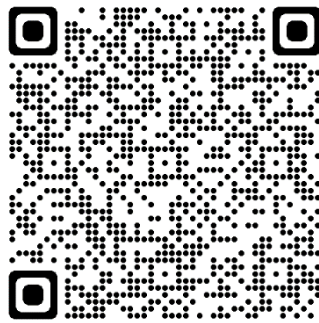
2023年度 中国語教育学会 第3回研究会 実施要項

1、開催日

2024年2月24日（土）12:30～17:10

- ・オンライン（zoom）で実施。2月21日または22日に申し込み者にZoomアドレスを送信予定です。
- ・参加費無料（google フォームで事前申込）**2月18日（日）23:59までに登録をお願いいたします。**

<https://forms.gle/9YRVW3C2t9ywJmtt8>



2、当日の流れ（発表30分+質疑応答10分=1人40分）

12:30～12:35 諸注意

12:35～13:15 発表者1(質疑応答含む)

13:15～13:20 休憩(5分)

13:20～14:00 発表者2(質疑応答含む)

14:00～14:05 休憩(5分)

14:05～14:45 発表者3(質疑応答含む)

14:45～14:55 休憩(10分)

14:55～15:35 発表者4(質疑応答含む)

15:35～15:40 休憩(5分)

15:40～16:20 発表者5(質疑応答含む)

16:25～16:30 休憩(5分)

16:30～17:10 発表者6(質疑応答含む)

<お願い> ・セキュリティの観点から、入室者の確認を致します。入室されましたら Zoom のお名前を「フルネーム_所属」に変更してください。

・発表中、お聞きになる方は必ず音声・ビデオをオフにしてください。質問はチャット欄への記入、あるいは発表終了後にマイクオンで音声でお願いします

発表要旨

発表者 1・研究発表

近代日本の中国語関係書とその和訳書における程度表現

金 敬玲(國學院大学・院)

本発表は、近代の日本で出版された中国語教育関連書籍とその日本語訳文を調査資料に当時の日中両言語の程度表現について考察したものである。まず、『官話指南』及びその和訳書である『官話指南総訳』と、『官話急就篇』及びその和訳書である『官話急就篇詳訳』に見られる程度表現についてそれぞれ対照分析を行ったうえで、当時の中国人講師により作成された『普通官話新華言集』の中国語の程度表現と、当時の中国人留学生のための日本語学習教材である『漢訳日本語会話教科書』の日本語の程度表現との比較分析を通して、日本人により作成された近代の中国語教育関連書籍の程度表現の取り上げ状況の特徴を明らかにする。

発表者 2・研究発表

「満洲国」中央師道訓練所における中国語教育 -『官署用会話讀本[満洲語篇]注釈書』を中心に-

祝 利(北九州市立大学)

1932年、日本関東軍の内面指導下で中国東北地域に傀儡政権である「満洲国」(以下、満洲国)が樹立された。その地域の教育を統一するために、ひとまず教員の養成に力を注いだ。1933年4月、中国人在職教員の再教育組織である教員訓練所が設立された。1938年、新学制の実施により、教員訓練所が拡充され、中央師道訓練所に改称された。中央師道訓練所においては、中国人在職教員に対する再教育を実施すると同時に、日本内地から日本人を招聘し、満洲国における日本人教員の教育・養成を始めた。日本人向けの教育科目の中、満洲語(中国語)が必須科目とされた。

本研究では中央師道訓練所で使用された中国語教科書『官署用会話讀本[満洲語篇]注釈書』を取り上げ、その内容についての分析を通して、中央師道訓練所における日本人に対する中国語教育の実態を考察してみる。

発表者 3・研究発表

存在表現の主体名詞について-「定」と「不定」を中心に-

謝 平(福岡大学)

現代中国語の存在表現の語順について、「定性制限」(中国語:定指性效应)という定説がある。つまり存在物である主体を示す名詞が「定」である場合は述語の前に置かれて主語となり、「不定」の場合は述語の後に置かれて目的語となるということである。中国語教育現場においては、初級段階で学習する「存在文」を教える時に、「定」と「不定」の概念を使って説明することが多い。しかし、「定」と「不定」の具体的な定義と範囲はまだ一致しておらず、様々な意見がある。また、定説に反して、主体名詞が「定」である用例も多くみられる。

本発表では、従来の研究を整理し、名詞の「定」と「不定」の定義と範囲を明らかにした上で、存在表現の語順との関係を再検討する。

(本研究は JSPS 科研費 (課題番号: 19K13192) の助成を受けたものである。)

発表者 4・実践報告

“同伴互評”在初中級漢語口語考試中的運用

羅 華 (立命館アジア太平洋大学)

如何完善初中級口語考試形式, 并对口語考試进行有效的评价, 确保口語考試能起到促进学习者学习的作用, 一直以来都是汉语教师们的关注热点。报告者所在大学的初中級口語考試通常采取的方式有个人口头陈述以及小组角色扮演两种方式。考试时考试人需面对全班同学进行报告或者表演, 其主要目的是希望学生们除了专注于自己的语言输出以外, 也能从别人的演讲或者表演中取长补短。但从以往的经验而言, 尽管教员再三强调观看他人的考试过程对自己的学习能起到促进作用, 但仍然还是有不少学生在别人进行表演或者报告时准备自己的考试, 即便是已经考完了的学生也很少有人认真观看。因此报告者尝试将“同伴互评”方式引入口語考試, 收到了一定的效果。“同伴互评”是学习者对与自己具有相同水平的学习者的学习做出评价的一种互动学习方式。在语言教学中, 目前主要运用于写作教学。报告者将报告将其运用到初中級漢語口語考試中的操作方法、收到的效果以及需要改进完善之处。

発表者 5・実践報告

生成 AI の時代に「中国語を教える」とは「何のために、何を、どうする」ことを考える

杉江 聡子 (札幌国際大学)

生成 AI の劇的な進化により、知識・情報の「正解」を求める教育は終焉を迎えようとしている。数値や記号による演算処理の正確性や整合性において、AI はヒトを凌駕している。言語知識の量と発音の正確さや流暢さのみを求める従来の外国語教育は、学習者にとって「役に立たない」活動となりつつある (文部科学省, 2022)。教師と学習者の双方が、AI を「拡張能力 (augmented intelligence)」として教学のアクターに位置づけ、より個性的で個人化した目的のために、自分のためのゴールを自ら設定し、学習過程で AI を最適に活用するスキルが必要である。一方、外国語教育の大きな目的は、国際化、多言語化が進む社会で円滑にコミュニケーションできる人材を育成することである。それでは、学習者の生きる社会では、どのような国際化、多言語化が進み、どのような中国語コミュニケーションが発生するのか。北海道の観光産業を事例に、教授設計の視点から教学活動への AI 活用について議論したい。

発表者 6・実践報告

ライティングスキルをどう高めていくか

—中国語ライティングコンテストを実施して—

大西博子、楊蕾、植屋高史 (京都外国語大学)

今や AI 技術の進化により、自分が伝えたいことは簡単に文章にでき、翻訳して発信できる時代。学生たちは AI を活用しながら、どの程度まで正確に自分の言いたいことを伝えることができるのだろうか

か。その現状把握の試みとして、昨年 12 月、本学中国語学科内で「中国語ライティングコンテスト」を開催し、学年や学習歴を問わずに作文能力を競い合った。応募テーマは中国語圏に関連する事柄で、自分が紹介したい題材を 1 点選び、それについて中国語で紹介するというもの。PowerPoint のスライド（ワイド画面）1 枚分に収まる分量を条件に、中国語版と日本語版を作成し、審査委員と学生投票からの総合点で順位を決定した。本発表では、コンテストを実施して得られた成果と課題について分析し、ライティングスキルをどう高めていくか、今後の作文教育における教授法について考えてみたい。